



新鹿会 Vol.3

Shinrokukai Report

令和2年12月発行

希望を持って
前へ



[連絡先] 鹿沼市千渡 2332
[TEL] 0289-60-6760
[編集責任者] 湯沢ひでゆき
※こちらまでご意見・ご感想をお寄せ下さい。



皆様からのご支援により、県政の壇上に立たせていただき、二年目も半年が過ぎました。昨年の台風19号による被害、そして新型コロナウイルス感染症の流行対策等、目まぐるしく過ぎ地元選出議員として東奔西走して皆様の負託に応えるべく活動し、微力ながら邁進する所存であります。この度『会派 新鹿会 会報誌』を発刊いたしました。ご高覧・ご助言賜りたくお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

〈新鹿会の主張〉

右記の5本柱で進めていきます。



1. 子育て環境の整備

2. 充実のシニア世代 3. 農林業の活性化

4. 県民生活の安心安全なまちづくり 5. 企業育成・雇用の確保

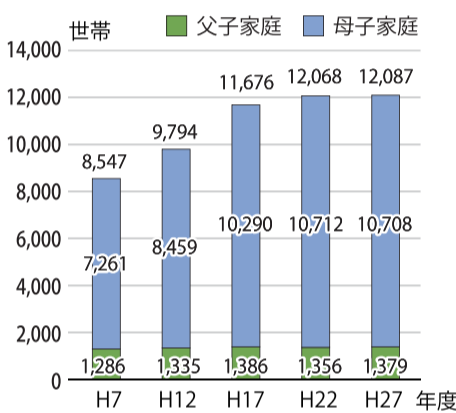
子どもの居場所と家庭の支援

栃木県では「夢をつむぐ子ども・子育て支援プロジェクト」を推進しています。子どもが健やかに成長することが出来る環境づくりについて現状と課題をご報告いたしますとともに、今後の取り組みについての提案をしていきたいと思っております。

〈子どもの貧困の状況〉

本県のひとり親家庭は年々増加しています。児童のいる世帯全体の平均収入700万円と比較すると母子世帯の平均は約49% (約340万円)と、低収入であることがわかります。

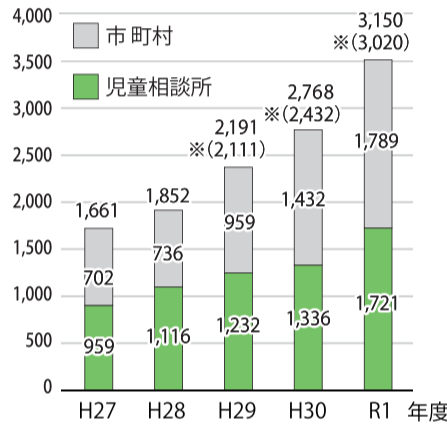
栃木県のひとり親世帯数の推移



〈児童虐待相談件数〉

栃木県における児童虐待相談対応件数の推移

※平成29年度からは、児童相談所から市町への事案送致件数を含む。()内は事案送致を除いた件数。
資料:総務省「国勢調査」



〈課題〉

家庭環境

- ロールモデルの欠如
- 勉強場所の欠如

親の心のケア

- 家庭内不和・虐待・ネグレクト
- 子育て時間の不足
- 保育の不足

学習

- 教育費不足
- 親による勉強指導の不足

医療

- 市町医療費助成の格差

〈今後の取り組み〉

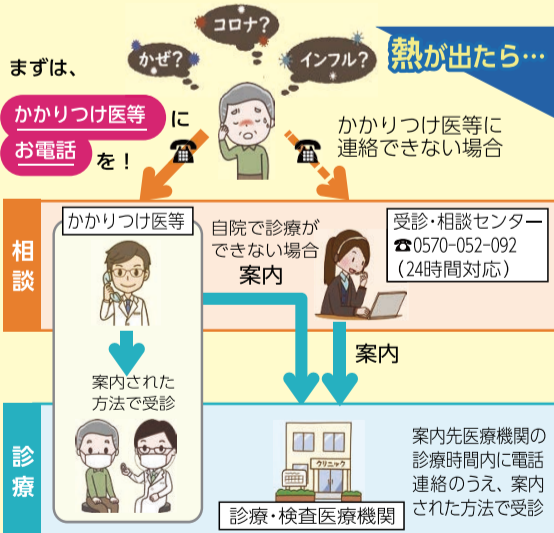
子どもは当然であるが、親の心のケアも大切である。子どもの居場所についても検討されるべきと考えます。子ども医療費の平準化を推進し、学習支援をする場、遊びの場、食事を提供する場など、体制を作ると同時にそれらを持続できる環境を作っていくべきと考えます。昨今ではヤングケアラーという課題も生まれ、次々と子育て環境に変化が生じています。栃木県には、子育て環境整備について県内自治体の底上げを図り、将来を見据えた先手の取り組みを提案して参ります。

新型コロナウイルス感染症対策について
栃木県の取組みの一部をご紹介します。

見えざる敵に打ち勝つ

〈検査体制〉

インフルエンザの流行期では多くの発熱患者等の発生が想定されます。新型コロナウイルス感染症と区別するための体制整備が重要です。発熱がある場合はかかりつけ医等の最寄りの医療機関に電話相談のうえ、案内された時間帯方法で受診してください。



〈医療提供体制〉 (令和2年11月から)

施設名	機関数	診療/検査可能数
診療・検査医療機関	530ヶ所	8,649人/日
行政検査委託医療機関	72ヶ所	コロナ 3,957件/日 インフル 7,552件/日
地域外来・検査センター	10ヶ所	
県保険環境センター 宇都宮市衛生環境試験所		260件

〜医療従事者の皆様へ〜

誰もが経験したことがない状況下でのちを守る最前線で働かれている方々に敬意を表します。皆様のおかげで私たちの安全が守られていることに本当に感謝いたします。

栃木県でも警戒度レベル『感染嚴重注意』です。対策の強化に向けて引き続き取り組んで参ります。

『新型コロナウイルス感染症対策』に関する提言 (令和2年6月12日提言)

新型コロナウイルス感染症が拡大している状況のなか、感染拡大を最小限に抑え県民生活に安心感を取り戻すためにも福田知事に新鹿会として以下の提言を致しました。

1 学力維持向上について

- ・オンライン化授業推進にあたり、児童生徒と保護者に 目的や活用方法の理解と指導体制の強化。
- ・本県出身や在住の大学生に生活支援の支給を検討し、学びの継続保障を。

2 地域医療機関について

- ・コロナ禍のなか、医療機関が講じる患者感染防止対策等に対する支援強化を図る。
- ・看護師有資格者の復帰支援について取り組む。

3 避難所対策について

- ・感染症対策中の避難所運営については、25市町それぞれの取り組みに対し基本的な設備等の補助をするなど、栃木県としての積極的な関わりをもつ。

4 地産地消の推進について

- ・インターネット通販サイト利用による、農産物等の販路拡大を目指すと同時に地産地消を目的として県内販路拡大を目指す。
- ・とちぎの豊かな自然や伝統文化を守り、子どもたちに引き継ぐためにも、学校給食に県産農産物を積極的に利用する。

5 新たな生活様式に対応するための支援助成について

- ・栃木県地域企業再起支援事業費補助金が広く活用されるよう、積極的に取り組む。
- ・県民生活に身近な理容業・美容業・飲食店などが、新たな生活様式に対応するための設備等に対する支援策を講じる。

6 雇用の確保について

- ・仕事を失った非正規雇用者の仕事の確保を県が主体となって取り組むこと。

警戒度レベル
特定警報
感染嚴重注意
感染拡大注意
感染観察

※警戒度レベルは12/2(水)時点



頑張っているあなたへ…

～あなたはあなたらしく～
忙しい毎日から少し立ち止まって心を休めてみませんか？
生きずらさを感じている方が側にいたら、励ましてあげませんか？
どうか一人で悩まないで
身近な人や支援機関・自治体の窓口にご相談してほしい。決して無理はしないで。心と体を休めることで次の努力につながりエネルギーも湧いてきます。

TEL: 栃木いのちの電話
028-643-7830 (365日24時間)

県では重点戦略「とちぎ元気発信プラン」に基づき、中長期的な展望のもと様々な施策を進めています。新鹿会の取り組みとして「南摩ダム」「寺山浄水場」「TIS(とちぎスポーツ医科学センター)」の現地調査を行いました。

南摩ダム (R2.9.29)

構想が表面化して約半世紀。いよいよ南摩ダム(思川開発事業)が、2024年度完成に向けて、工事を本格化した。完成すると都心から僅か2時間の距離に貯水量で五十里ダムに迫る5,100万㎡の『南摩ダム』となる。

今回は、鹿沼市南摩地区にできるこの『南摩ダム(思川開発事業)』について概要をご報告いたします。

事業は、総事業費約1,850億円。思川支流の南摩川にダムを建設し、付近の黒川、大芦川とダムを地下トンネルで結び、水を融通する計画。(下図流域図) 思川や利根川の洪水被害の軽減、流域自治体への水道用水の供給などが目的です。



また市は、完成後は鹿沼の観光資源として、ダム湖を活用した・ジップライン・グランピング・カヌー等々の構想も検討、ダム下流には、温浴施設も建設中で「豊かな自然に彩られた水源地域に新たな交流拠点」を計画しています。

半世紀に及ぶダムの実現にむけて、多くの皆様のご理解とご協力により、着々と工事が進んでおります。11月より、展望台からの一般開放も始まり、これからは鹿沼市民の皆様を始め、多くの方々に事業目的を知っていただきたいと思っております。

半世紀に及ぶダムの実現にむけて、多くの皆様のご理解とご協力により、着々と工事が進んでおります。11月より、展望台からの一般開放も始まり、これからは鹿沼市民の皆様を始め、多くの方々に事業目的を知っていただきたいと思っております。

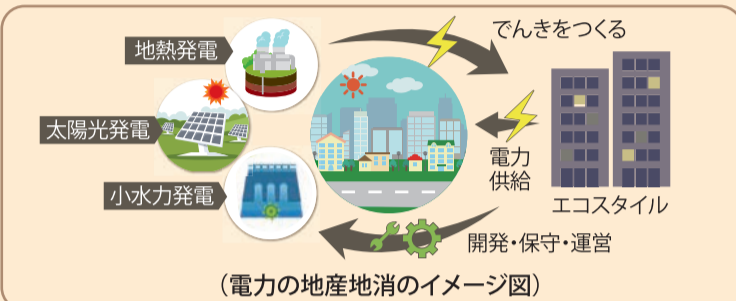


矢板市 寺山浄水場 小水力発電所 (R2.8.5)

昨今大型台風等による激甚災害を契機に国内各地でエネルギーの地産地消が叫ばれています。地域の特性や需要の形態などに合わせて、様々な分散型エネルギーシステムを構成されるなか、矢板市にあります寺山浄水場小水力発電所も、興味あるエネルギーのひとつであります。自分の住む地域の活性化に参加・貢献していく「電力の地産地消」という新たな視点で注目されています。



- 創設の背景
- 再生可能エネルギーの利用
 - 省エネルギー設備の導入の促進
 - 資源エネルギー対策



将来の見通しとして、このような分散型エネルギーを使うことによって、エネルギーの地産地消に繋げる可能性があります。

開催まであと2年!



42年ぶり、2度目の国民体育大会・本県初の全国障害者スポーツ大会が開催されます。県民の熱い思いで両大会を盛り上げましょう!!

※カンセキスタジアム 令和2年7月23日開場

いちご一会 運動について

県では「いちご一会運動」を展開しています。積極的に参加しましょう!

詳細は公式ホームページをご覧ください

運動の趣旨

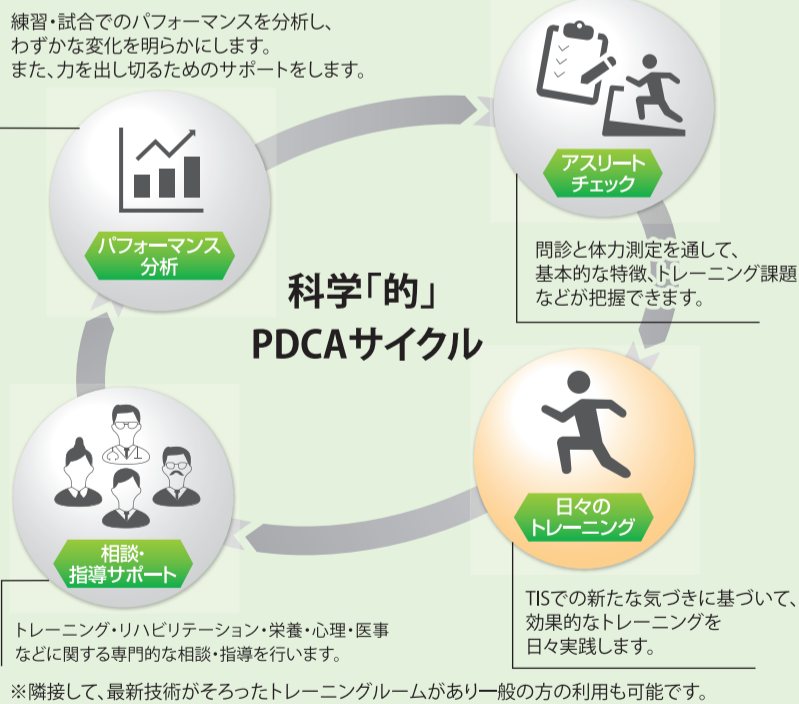
県民の皆さんが、国体・大会を「する」「みる」「支える」といった様々な関わりをもつことで、夢と希望を抱き、感動を分かち合うとともに、来県者をおもてなしの心で温かく迎える両大会の実現に向けて、県民運動を展開します。



TIS(とちぎスポーツ医科学センター) (R2.10.31)

栃木県では、令和4年に開催される『いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会』を見据え「県民に愛され、県民が誇れる、県民スポーツの推進拠点」の整備を進めています。その一環として、総合グラウンド(カンセキスタジアム)内に『TIS(とちぎスポーツ医科学センター)』が出来ました。県は、スポーツ医科学センターを通じて県民のスポーツ振興を図るとともに 競技力向上を支援し、国体への準備を進めています。

とちぎのアスリートの「実践力向上」のため設立された、『TIS(とちぎスポーツ医科学センター)』を調査しましたので、その内容をご報告します。科学的PDCAサイクルを回してさまざまな能力を養成し競技力向上のための「知恵の開発」を目指していくことで、とちぎのトップアスリートの育成に必要な測定・評価から指導サポートまでトータルコーディネートしています。



本県のアスリート達が、まずは国体にむけて、さらにはオリンピック・パラリンピック等で活躍するためにも活用してほしいと思っています。これから集まるたくさんのデータをもとに、未来の子供たちの体力づくりや高齢社会にむけて、健康寿命の延伸など、応用されていくことを願います。

編集後記



子どもの貧困を救うには行政や地域からの支援が最も大切であるが、子どもを取り巻く環境の中には温かく見守ってくれる大人たちの存在も大切。事の善悪や生きていく知恵、社会には学校の成績とは違う価値観があることを教えてくれる多様な大人

に出会うことも大切。子どもが成長する中で人間て温かいな。大人って困ったときに助けてくれるんだ。子どもの心に人間に対する信頼感が生まれていき僕はこんなに大切にされているんだ。私は大切な存在なんだ。やがて子どもたちが大人になったときに

家族を大切にしよう。仲間を大切にしよう。社会をよりよくなっていきたい。という気持ちが芽生えていってくれたら嬉しい。一人ひとりの小さな思いやりの積み重ねで子どもの貧困を救っていく手助けになれたらと思う。